

1000年後の命を守る

家に戻ろうとしていいる人がいれば、絶対引き止めてください



石碑の建立予定地について、所有者の木村喜一さん(右)から説明を受ける生徒たち—宮城県女川町で

東日本大震災2年半

宮城県女川町(なまが)に来月 中教頭Ⅱの板書に次
 下旬、町立女川中学校 々、手が挙がる。「津
 の3年生約70人が発案 波の歴史を調べよう」
 した「いのちの石碑」 「大津波の原因が知り
 が建ち始める。東日本 たい」。教科書も鉛筆
 大震災から11日で2年 も制服も流され、同中
 半。ほぼ同じ時を重ね に統合前の女川第一・
 た中学生活で津波対策 第二中に進んだ「震災
 を話し合ううち、保護 後1期生」。自分たち
 者や地域住民に協力の の頭で考え始めた。
 輪が広がった。約8割 人口の1割弱、87
 が自宅を流された生徒 0人が死亡・行方不明
 たちが、被災から学ん (震災関連死亡含む)にな
 だ教訓を津波到達地点 った同町。家族を失っ
 の碑文に刻む。 た生徒も多い。今後も
 入学直後の2011 正面から「津波」を授業
 年4月、社会科の授業 で取り上げているの
 だった。「古里にでき か。ためらう阿部さん
 ることを考えよう」。 は同6月1期生・山田
 阿部一彦教諭(47)Ⅱ現 太介君の俳句を知る。
 ・同県気仙沼市立唐桑 「夢だけは 壊せなか

宮城の中学生、石碑に教訓

った 大震災」。前向
 きな内容に背中を押さ
 れ、津波対策を議論す
 る授業を社会科で始め
 ると、休み時間にも話
 し合いの輪ができた。
 その輪の中で、勝又
 愛梨さん(14)は「自分
 だけがつらいんじゃない
 いて思えた。曾祖父母
 といとこ2人が死亡・
 行方不明。だが、似た境
 遇の友人も話し合いに
 参加していたからだ。
 2年生になると、生
 徒たちからこんな案が
 出た。「校庭に津波の記
 録を残そう」。町役場
 には1933年の昭和
 三陸地震を伝える碑も
 ある。津波到達点を後
 世に伝える「いのちの
 石碑」プロジェクトが
 次第に芽生えた。
 沿岸部の全21集落に
 1基ずつ建てるには約
 1000万円必要だ。
 母親らに相談すると、
 「私たちが頑張る」と
 「支える会」が発足し
 今年2月に募金を始
 め、目標を達成。石材の
 寄付も受けた。建立す
 る土地の提供を申し出
 た木村喜一さん(80)は
 「立派な子どもたちを
 支えたいと思った」。

津波到達点に21基建立へ

3年生になった全員 神田七海さん(15)が浪
 の案を基に8月26日、 ながらに「逃げよう
 碑文ができた。中心に 言ったって、逃げない
 なってまとめた阿部由 人がいるんだよ」と語
 季さん(15)は「飾らな った、祖父の被災状況
 い言葉で、ストリート も織り込まれている。
 に1000年後に伝え へ逃げない人がいて
 る」ことを心がけた。 も、無理やりにも連

女川のちの石碑(原文のまま)

東日本大震災で、多くの人々の尊い命が
 失われました。地震後に起きた大津波によ
 って、ふるさとを飲み込まれ、かけがえの
 ないたくさんの宝物が奪われました。
 「これから生まれてくる人たちに、あの
 悲しみ、あの苦しみを、再びあわせたくな
 い!!」

その願いで、「千年後の命を守る」ため
 の対策案として、①非常時に助け合うため
 普段からの絆を強くする。②高台にまちを
 作り、避難路を整備する。③震災の記録を
 後世に残す。を言葉に、私たちはこの石
 碑を建てました。

ここは、津波が到達した地点なので、絶
 対に移動させないでください。
 もし、大きな地震が来たら、この石碑よ
 りも上へ逃げてください。
 逃げない人がいても、無理やりにも連
 れ出してください。

家に戻ろうとしている人がいれば、絶対
 に引き止めてください。
 今、女川町は、どうなっていますか?
 悲しみを涙を流す人が少しでも減り、笑
 顔あふれる町になっていることを祈り、そ
 して信じています。

2014年3月 女川中卒業生一同

れ出してください。
 避難をいとう住民を説
 得するうち、祖父は津
 波に襲われた。
 全21基のうち今秋9
 基が順次建つ。残り12
 基は「1期生」が20歳
 になるまでに建てるつ
 もりだ。だから碑文は、
 「2014年3月」卒
 業生一同」で結んだ。
 卒業後もプロジェクト
 は続く。生まれてくる
 子どもたちのために、
 1000年後までも命
 を守るために——。
 【金森崇之、写真も】